

児玉康比古 議員

(一問一答方式)



- ①市消防団のあり方について
- ②長浜港内港埋立事業基本計画(案)について
- ③コミュニティセンターについて

消防団員の定数について

問 市の人口減少が進んでいる中で、法定消防団員数の見直しを図る考えはないか伺いたい。

答 人口減少や団員の高齢化の影響により団員数は減少していますが、頻発化する激甚災害や今後発生が予想される南海トラフ地震等に対応するために、地域密着力、要員動員力、即時対応力という3つの特性を有する消防団は地域防災力の中核をなし、常備消防とともに公助を担いつつ、地域における共助の一翼を担う大変重要な存在ですので、一定数の団員の確保は必要と考えています。

そのような状況ですが、人口が減少していく中で、適正な定数を見極めていくことも必要であると考えていますので、消防団長をはじめ団員の皆様とも話し合いをしながら、適正な定数の設定に取り組んでいきます。

便益施設エリア(道の駅)について

問 運営方法については、大洲市直営、第三セクター方式またはそれ以外の運営方法を考えているのか。また、地元商店街との競合が発生する恐れはないのか伺いたい。

答 便益施設エリアでは、道の駅とコンビニエンスストア等の小規模商業施設の整備を計画しています。具体的な運営方法については、現時点では決定していませんが、今後、便益施設だけでなく、スポーツ・レクリエーション施設や公共施設等も含め、当事業に適した整備、運営手法について、民間事業者との直接対話により、広く意見や提案を求めるサウンディング調査を行い、その中でいただいた意見や提案を参考として、最も適切な事業手法を選択し、経費等の考えも整理していきたいと考えています。

次に、地元商店街との競合についてですが、昨年7月に実施しました地元事業者を対象としたアンケートでは、一部の方から「販路の拡大のため道の駅を整備してほしい」「地元の商店や有志グループ、個人でも気軽に商品を販売できるスペースがあればよい」など、道の駅の整備や活用について前向きな回答をいただきました。

今後、施設の詳細について検討していく中で、地元商店や農林漁業者の方々の意見を伺いながら、道の駅を訪れた方に長浜、そして大洲の魅力を最大限PRできる施設となるよう取り組むとともに、道の駅を起点として、町なかにも人が流れていくような仕組みづくりを検討していきたいと考えています。

スマートロックの導入について

問 コミュニティセンターの貸館について、施設利用システムの導入を進めているが、Wi-Fi回線の使用料といったコストが課題である。コストのかからない簡易の鍵ボックスを設置しての鍵の貸出しについて、検討されているのか伺いたい。

答 現時点でコミュニティセンターでの開館時間外の対応は、管理人での対応、近隣住民への鍵の管理委託、簡易の鍵ボックスでの管理など、施設によって様々な対応となっており、公民館当時の管理方法を引き継いでいる形です。

スマートロックの導入については、令和5年度の実証実験の結果を踏まえ、今年度学校体育施設など計18施設に導入する予定です。年度内にシステム構築、整備工事、運用テストを経て、本格運用に移行できるように進めていきます。

今後は、施設利用予約システムを導入する施設のうち、スマートロックを導入しようとする施設について、施設の利用状況を踏まえた費用対効果等を算定するほか、地域性などを考慮しながらランニングコストのかからない簡易の鍵ボックスの方法も含めて検討を進めることとしています。



スマートロック操作方法
(市HP)